

(第5号様式)

学位論文審査の結果の要旨

氏 名	Alim Setiawan Slamet
審査委員	主査 中安 章 副査 胡 柏 副査 市川 昌広 副査 遅澤 克也 副査 武藤 幸雄

論 文 名

Transformation of Modern Retail Market in Indonesia: Consumers Choices, Small-scale Farmers'

Participation and Sustainable Fruit and Vegetable Supply Chain Management

(インドネシアにおける現代小売市場の変革：消費者の選択行動、小規模生産者の市場参加と持続可能な青果物サプライチェーン・マネジメント)

審査結果の要旨

インドネシアにおける青果物流通の変化は、日本の高度経済成長期以降に見られる動きと同様に、食品小売市場の発展に影響を受けていると考える。本研究論文は、インドネシアにおける現代小売市場の変化と今後の展開方向について、消費者の選択行動、小規模生産者の市場参加及び持続可能な青果物サプライチェーン・マネジメントの面から論じたものである。

本論文では4つの課題を設定している。第1は、消費者の小売形態の選好と青果物購入に対する影響要因を明らかにすることである。第2は、インドネシアの消費者の有機野菜の購入における選好に対する影響要因を明らかにすることである。第3は、小規模農家の小売市場参加とその効果を明らかにすることである。第4は、現代の小売市場への小規模農家の参加に基づいて、持続可能な青果物サプライチェーン・マネジメントに対する決定要因を明らかにし、今後の展開方向を示すことである。この課題に対して、経済成長著しい Jabodetabek 地域（ジャカルタ及び周辺地域、首都圏）を対象地域とし調査研究した。

第1の課題に対して、第2章で、この地域の消費者に対して行ったアンケート調査から、記述的分析、因子分析、多項ロジットモデルを用いたデータ分析を行っている。その結果次の2点を明らかにしている。第1は、小売形態の発展は消費者にその購買行動で選択の幅を広げ、近代的な小売店の普及は、社会経済面、地理的に広がる可能性が高い。しかし、調査結果から、現時点ではインドネシアでの青果物販売の主要なシェアを獲得できていないこと、伝統的な食品小売店が青果物のサプライチェーンに不可欠な要素として残っていることを明らかにした。第2は、インドネシアにおいて消費者の青果物小売形態の選択に対して重要な決定要因は、品質、安全性、価格、容易さと可用性、ブランドとトレーサビリティ

ィ、店舗属性であることを明らかにした。その結果、現代的なライフスタイル、便利な場所での買い物とブランド、トレーサビリティ属性を有する商品の購入を望む消費者が増えている。一方、価格、容易性、可用性、製品品質、安全性の面で伝統的小売形態の支配が継続していることも明らかにした。

第2の課題に対しては第3章で、インドネシアの消費者の有機野菜の購入における選好に対する影響要因として、家族人数（少数）、収入（高い）、価格に耐性の有無（有る）であることを明らかにした。さらに重要な発見として、有機食品、安全衛生、環境問題、有機的属性への信頼度が消費者の有機野菜の購入の決定要因であることを示している。これを受けて、インドネシアにおける有機野菜開発には、(a) 適切な価格戦略の実施、(b) 野菜の有機ラベリングと認証の奨励、(c) 健康、安全、環境の持続可能性に関する消費者への販売促進、が必要であるとしている。

第3の課題に対して、第4章で、インドネシア西ジャワ州を中心とする137人の野菜栽培者を対象としてヒアリング調査を行い、スーパーマーケット参加の制約を探るために、参加者と非参加者の違いを比較検討している。その結果、第1に、小規模農家のスーパーマーケット・チャンネルへの参加にあたって、農場規模よりも、教育レベル、灌漑状況と荷造り・貯蔵場所等の所有権の制約が大きく影響していることを明らかにした。このことは、インドネシアの近代的な市場成長には小規模の農民の参加も含まれる可能性があることを示している。農家によって運営されている農場面積は通常小さいが、集団的行動を通じて専門的な卸売業者と結びつき、より高い経済的規模の下で活動することが可能である。さらに、第2として、影響分析から、スーパーマーケットのチャンネルに参加することで、従来のチャンネルよりも一人当たりの家計所得が高くなることも明らかにしている。小規模農家をスーパーマーケットのチャンネルに結びつけることは、小規模農家の収入を改善するための有益な戦略となり得ることを意味する。

第4の課題に対しては第5章で、専門研究者と業界実務家からの文献および意見のレビューに基づいて、持続可能な青果物サプライチェーン・マネジメントを実施するための15の影響力のある決定要因を特定し、解釈的構造モデリング（ISM）方法論を使用し、分析を行っている。その結果、物理的および制度的インフラストラクチャー、サプライチェーンメンバーとステークホルダー間の協力などが強力な推進力を持っていることを明らかにした。また、製品の安全性や品質の向上、サプライチェーンの柔軟性、応答性、効率性などの他の決定要因に強く依存する要因の存在を発見している。その上で、持続可能なサプライチェーンマネジメント（SSCM）の実施は、青果物サプライチェーンの実行者にとって不可欠な戦略であると述べている。

本論文における新しく重要な知見は次の3点である。第1は、インドネシアにおいて近代的小売形態の広がりが見える中で、伝統的小売形態の継続が見られること、その店舗選択に対して重要な決定要因として、品質、安全性、価格、容易さと可用性、ブランドとトレーサビリティ、店舗属性であることを明らかにしたことである。第2は、小規模生産者の市場参加に対して、集団的行動と専門的卸売業者との結び付きにスーパーマーケットなど近代的小売形態への参加が成り立ち、高収入が期待されることを明らかにしたことである。第3に、持続可能な青果物サプライチェーン・マネジメントの実施に対して、重要な決定要因を明らかにしたことで、これがインドネシアの今後の青果物サプライチェーンに不可欠な戦略であることを示したことである。いずれも、今後経済成長していくインドネシアにおける青果物流通においてその方向性を示したものとして高く評価できる。

本論文に関する公開審査会は平成29年8月5日、高知大学農林海洋科学部で開催され、申請者の論文発表と適切な質疑応答が行われた。引き続き行われた学位論文審査会で本論文の内容を慎重に審議した結果、審査委員全員一致して博士（学術）の学位を授与するに値するものと判定した。